



たらま

平成 26 年
12月号
平成26年12月1日発行
No.489

発行/多良間村役場・編集/総務財政課広報係 〒906-0692 宮古郡多良間村字仲筋 99-2 ☎0980-79-2011



絆

多良間村は、
39番目の

「日本で最も美しい村」

連合に加盟
しています。



the most beautiful
villages
in japan

多良間村教育委員会 教育長決まる

教育委員長
知念信雄氏(64)

教育委員長職務代理
新里五子氏(48)

教育長
池城三千雄氏(59)



11月19日に村議会臨時会において、村当局から教育委員会委員任命について三氏が提案され全会一致で可決。翌20日に伊良皆光夫村長は三氏に辞令を交付した。その後11月21日に教育委員会が開かれ教育長と教育委員長が互選された。

平成26年 第7回

多良間村議会臨時会

去る11月19日多良間村議会(森山実夫議長)の臨時会が開催され、伊良皆光夫村長から教育委員会委員の任命(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第1項の規程により)について提案され、委員に知念信雄氏、池城三千雄氏、新里五子氏の三氏が全会一致で可決された。



多良間村 教育委員会からのお知らせ(周知)

多良間村は、幼稚園の入園料・保育料(10月)及び児童生徒の学校給食費(9月)の無償化が、平成26年9月18日の定例議会において、決定致しました。

保護者の皆様には、経済的な負担軽減に大きく貢献するものと期待します。

平成25年度多良間村財政指標について

■平成25年度健全化判断比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律(平成19年法律第94号)第3条第1項の規定に基づく健全化判断比率

(単位: %)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率	—	—	12.7	—
早期健全化規準	15.00	20.00	25.0	350.0
財政再生規準	20.00	30.00	35.0	

備考: 健全化判断比率のそれぞれの欄において「—」と表記されている場合は、実質赤字額、連結実質赤字額がないこと及び実質公債費比率、将来負担比率が算定されないことを表す。

■平成25年度資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律(平成19年法律第94号)第22条第1項の規定に基づく資金不足比率

(単位: %)

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化規準
簡易水道事業特別会計	—	20.0

備考: 資金不足比率の欄において「—」と表記されている場合は、資金不足額が発生していないことを表す。

第17回 楽しく走ろう 歴史が見える島 たらま島

たらま島一周 マラソン大会

過去最高の395人多良間路を駆け抜ける



去る11月8日第17回たらま島一周マラソン大会が、村役場前をスタート、ゴールする4つのコースで開催された。島を1周する24・3kmマラソンで男子初出場の児玉明紀(宮古島市)が1時間30分15秒。女子の塚田恭子(東京都)が1時間51分17秒で2連覇し、男女とも大会新記録を更新した。



開会式は午前11時に小学校グラウンドで行われ、大会長の伊良皆光夫村長は「今大会は県内外からの過去最多出場と言うことも有り感謝します。日頃の練習成果を十分に発揮し、無理なく体力に合わせて多良間の歴史を感じながら笑顔で楽しく走ってほしい。」とあいさつした。また、会場では村のイメージキャラクターの「たらびん」も登場し盛り上げてくれた。



平成26年度沖縄県広域地震・津波避難訓練



去る11月5日、平成26年度沖縄県広域地震・津波避難訓練に伴い、多良間村は全住民により避難訓練を実施した。この訓練は、沖縄県地震防災計画に基づき、大規模地震・津波の発生を想定し、県民等の避難行動に特化した県下全域を対象とする実践的な訓練を通して地震・津波に対する防災意識啓発や津波避難訓練計画等の検証を行うことにより、地震・津波災害にかかるとを目的に実施された。

訓練の想定は、11月5日10時30分に沖縄県全域で強



い地震が観測され、10時33分に「沖縄本島地方」「大東島地方」「宮古・八重山地方」に大津波警報が発表されたとして開始した。

参加団体は、幼小中学校や保育所・社会福祉協議会・一般住民・消防団らが指定された津波避難場所へと駆けつけた。

多良間島の津波避難場所
(海拔表示M)は次の通り
 ＊八重山遠見台 27 M
 ＊父母の森 23 M
 ＊浄水場 28 M

宮古地区農業委員・多良間開催



去る11月18日に多良間村で平成26年度農業委員研修会・宮古地区研修会が行われました。

研修会では、全国農業会議・沖縄県農業会議・各関係機関の講師による

(1) 農業委員会系統組織をめぐる情勢について

(2) 農地法の適正執行について

(3) 農地中間管理事業の推進について

(4) 農業者年金加入推進について

その他の講義が行われ、新人委員をはじめ、多数の委員から活発な質疑応答が行われ、各農業委員の活動強化、資質向上を図った。

研修会終了後、意見交換会等も行われ各委員の交流も深まった。

多良間新製糖工場の 早期建設を要請

去る11月17日に宮古製糖株式会社(安村 勇社長)の専務取締役長濱哲夫と来間春誠多良間工場長が村役場を訪れ、多良間新製糖工場の早期建設を要請した。

要請として、「多良間村において古くは明治時代からさとうきびの栽培がなされ島の産業発展に寄与されてきました。

現在の工場は、昭和51年12月に完成し今日まで地域の重要な基幹産業として操業を続けてきました。築38年を経過し建屋及び設備等の老朽化が進み、設備投資や経営環境にも影響が出ている。

多良間村の経済発展には、生産農家の所得の向上及びさとうきび産業の継続発展が重要な事であります。その一翼を担う製糖工場の役割をご理解いただき新工場の建設を要請する。」とした。

また多良間地区さとうきび生産組合(本村健次組合長)は「既存の製糖工場は、機械設備の老朽化や集中脱葉処理施設等は設置されてから、約20年経過しており同様に老朽化が進んでいます。新工場と同様に、集中脱葉処理施設の新規導入も急がれている。

さとうきびの安定的な生産及び、「エコ黒糖」のブランド確立のため、環境に配慮した宮古製糖多良間工場の建設、集中脱葉処理施設の新規導入を、早期に実施するよう」要請した。



病害虫のまん延 防止にご協力を!

移動規制の対象地域から以下の持ち出せないものが届いた場合には、植物防疫所にご連絡をお願いします。

移動規制の対象地域及び持ち出せないもの

・沖縄県全域、奄美群島、トカラ列島、小笠原諸島、徳之島、沖永良部、与論島など

サツマイモ・ヨウサイ・グンバイヒルガオ・モミジバヒルガオ・カンキツ類・サルカケミカン・ワンピなど生植物等

詳しくは下記へ

農林水産省植物防疫所

<http://www.maff.go.jp/pps/>

放送大学4月生募集の お知らせ

放送大学では、平成27年度第1学期(4月募集)の学生を募集しています。

放送大学はテレビ等の放送やインターネットを利用して授業を行う通信制の大学です。

心理学・福祉・経済・歴史・文学・自然科学など、幅広い分野を学べます。

出願期間は3月20日です。

資料を無料で差し上げています。

お気軽に放送大学沖縄学習センター(TEL:098-895-5952)までご請求下さい。

放送大学ホームページでも受け付けています。

平成26／27年期 製糖操業は年明け

宮古製糖(株)多良間工場(工場長 来間春誠)は、平成26／27年期操業に向けて恒例のボイラー火入れ式を去る11月18日に行い、工場職員や各関係機関が参加し、操業中の安全祈願を行った。

また、12月5日に総合試運転。平成27年1月5日を操業開始(圧搾)とし、さとうきび搬入予想トン数を21,000トンとした。



平成26年度 多良間村民運動会



平成26年度多良間村民運動会が去る11月3日、小学校グラウンドで開催された。「スポーツをとおして村民の健康増進と心のふれ合



い・明るい平和で豊かな地域づくり」と村の活性化を図る目的で行われた。
開催にあたり伊良皆光夫村長は「爽やかな秋晴れのなか村民皆さんが、ガンジュウシャドウ宝を基本に体力づくり健康づくりに頑張っていたいただきたい」とあいさつした。
全23種目の盛りだくさんの競技を各区代表が競争に



挑んだ。糸くり競技や縄などいなどは年配の方々がハッスル！汐汲みやギツチョウ・ワーガニマース競技は若手が！幼稚園児から老いも若きも和気あいあいと楽しく一日を過ごした。

多良間小学校を表彰 体育優良校

村立多良間小学校（校長森田正人）が日本学校体育研究連合会より学校体育優良校として表彰を受けた。先に岐阜県で行われた全国学校体育研究大会（21世紀を生きる子どもたちが明るくスポーツライフを実現することが重要で、運動の楽しさや喜びを味わい運動への関心や意欲を高める事が趣旨。）で同校の砂川武彦教頭が参加し表彰状を受けた。

多良間小学校は「運動の楽しさや喜びを味わい、自ら学ぶ児童の育成」を研究テーマに活動を展開してきた。それらが認められ沖縄県の推薦で同大会に参加し、優良校の受賞を受けた。

砂川教頭は村長室を訪れ受賞の報告を行い、伊良皆光夫村長は「児童生徒、先生たちの頑張りが受賞へとつながった。地域や保護者の協力もあつたと思う。今回の受賞を励みに、今後とも子どもたちの健全育成に取り組んでほしい」と話した。



合掌・多良間神社祭

去る11月10日、多良間神社において氏子や村役場、関係機関・村民多数が参列し、神社のまつりごとを司るニサイガツサの下、参加者らが合掌した。

村民を代表して伊良皆光夫村長が祈詞を延べ、参加者全員で土原豊見親頌徳歌と数え歌を合唱した。

神社には明治36年11月14日植福木五拾本と書かれた扁額が奉納されている。現在その福木が大木となり天高くそびえている。また数え歌は木板に書かれ奉納されている。



多良間神社は土原豊見親を祀る神社であり、土原豊見親は15世紀に出現し、アマガー村、ハリマ村、フタツガー村など島の諸勢力を統一し、点在していた集落を現在の集落位置に統合した郷土開拓の先駆者である。

尚真王から多良間島主に命ぜられ、豊見親は宮古島の頭の指導の下に島の政治に力を注いだ。また豊見親は運城御嶽・泊御嶽を創設して民心の教化に努めた。

豊見親口説の詩、三味線を仲

間精一氏が披露。来年の神社祭は児童生徒らの参列と余興を増やしていきたいと参加者らは確認していた。

次に「土原豊見親頌徳歌」を掲載

1、泊の嶽や 運城
杜の社底つ根に
堅く定めて 建てませる
村はいや継ぎ 栄えゆく
思えば御親土原の
豊見親の徳だ 崇めましよう

2、心の光 燈されて
生活の法を 伝えられ
はるかな海の 外までも
輝きわたる 勲しは
民の行く末 いや栄えと
今は鎮守の 守り神

3、島と海との 日に映えて
常磐に繁る 土原の
山のふもとの 和かげに
民草永久に 幸歌う
仰げ諸人 垂乳根の
御親の高い 御徳を



郷友会
紹介企画
第50回

東京多良間郷友会

会長 土井 幸子



東京多良間郷友会よりご挨拶申し上げます。
日ごとに秋が深まってきましたが、皆様にはお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は、東京多良間郷友会の活動にご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。
また、9月の8月踊りの際には友人共々踊りを楽しませていただきました。ありがとうございました。

祝う「第81回多良間まつり」を開催いたしました。多良間村より伊良皆村長を始め、下地土建、多良間興産の社長さん及び社員の皆さん。昭和30年同期生の皆様にご参加を頂き、総勢200人による多良間小中学校校歌斉唱を力強く行つて節目の会を締めくくることができました。この場をお借りしましてお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

「80周年記念誌発行」におきましても多良間村の皆様には広告や寄付の形。あるいは記事や写真の提供に惜しみのないご協力を頂きました。皆様のお力添えにより多良間村の香りがいっぱい詰まった温かい雰囲気の記事に仕上がったことに会員一同、大変満足を感じております。宮古毎日新聞社のお勧めを頂いて、一冊1000円での販売を始めました所でもあります。皆様の心温まるご協力に心より感謝申し上げます。

東京多良間郷友会の結成は、



1933年(昭和8年)。今年で81歳を迎えることになりました。結成当時は、長引く不況で失業者が町にあふれ、沖縄に対する蔑視の風潮もある苦難の時代でした。

そんな中、東京で身寄りのない多良間出身者10人前後の人達が、寄り添って励まし合おうと、昭和8年8月、青山一丁目の泉川春仁さん宅で、郷友会を結成。初代会長に親里春順氏が選任され、仕事の話、ふるさと多良間の郷愁を語り「石に噛り付いても」と、

初心を確かめ合い、励ましあつて親密に語らったそうです。

以後、第2代目に澤田朝序氏、第3代目福田朝祥氏、第4代目富弘峻氏、第5代目長池間常茂氏の歴代会長を中心に、会員が一丸となり、今日の郷友会の土台が作られました。1983年(昭和58年)第6代目神田玄一会長の就任で私も役員として郷友会の運営に参加。第7代会長の村吉常宏に継いで、2008年(平成20年)より現執行部が運営にあたっております。

神田前会長の方針でもあつた「宮古連合始め沖縄関係各団体とのつながりを深め、親睦の他、学び合いを大切にした郷友会活動」を目指して船出を致しました。しかし、不況と郷友会離れの時代に遭遇。参加者は減少の一途をたどります。宮古郷友連合会の郷友会の中には単独の総会を諦め、合同の会に変更する状況となり、会員(参加者)増強は、喫緊の課題となります。

80年の歴史を持つ東京多良

間郷友会は、他の郷友会を先導してきた経緯もあります。「80年の歴史、先達の尊い志を閉ざすことになつてはならない」を合言葉に、会の存続、会員増強のため、手法を模索。試行錯誤の末、会員同士の親睦を図るとともに文化・芸能も普及する「会員の友人知人も参加できる多良間まつり」の開催に踏み切った次第でした。

趣旨に賛同された沖繩本島で活躍の渡久山英男氏、福嶺勝公氏、兼城克夫氏、広島の野原政吉氏、大阪の清村斉氏等歌者の先生方にご協力いただいたことで内容も充実。「多良間まつりは楽しい、多良間はすごい」との評判を頂いて少しずつ参加者が増え、総会に参加する会員が10人にまで落ち込んだ当初には比較にならない会として成長してまいりました。

また、昭和23年生同期生の集団参加をきっかけに多良間、宮古、沖繩本島、関西、広島等遠方の郷友の参加が、多良間まつりを盛り上げ、大きなエネルギーになりつつあります。



ネーミングも東京のはいらない「多良間まつり」です。今後は、世界多良間人大会のような、日本全国の多良間人が集う「オール多良間」の会に成長してほしいと願う所でもあります。

さて、多良間村制施行100周年の年が、東京多良間郷友会80周年と重なる歴史にも感慨深いものがございました。私もご招待を頂いて式典、祝賀会に参加させていただきましたが、会場中央に堂々とした子ども達の姿が印象的でした。子どもと、人生の先輩である「目上の方を敬

い、大切に扱う」多良間の崇高な文化に大変感動を致しました。

故郷を離れ、東京に暮らす私たちにとって12歳〜96歳までが集う「トウイ会」「スツウブナカ」や「八月踊り」などの伝統文化、行事を100年もの間、守り続けるばかりか「日本で最も美しい村」に登録されるほどの美しい自然を守りつつ、農産物の収穫でも成果を上げていらつしやる島の皆様は、誇りであり、その頑張りには心から、感謝と敬意を表すものでございます。

「故郷は遠き東京にあつては、思いが強いもの」であり、様々な文化、価値の中で、変わることのない大切なものが故郷を思う心だと、常々考えてもいます。

記念誌には結の文字がはいりました。「多良間村と郷友会のパイプをしっかりと結び、交流がさらに深まりますよう」願いが込められています。

大変恐縮には存じますが、島を離れた我々が都会の荒波に負けずに頑張れるよう、懐かしく思い出せる故郷をいつまでも大切に頂けると、大変有難

く存じます。我々は、生活基盤をしっかりと作ることで、多良間の宣伝役を担い、多くの人々に多良間島を知って頂いて発展に役に立てるよう頑張る所存でございます。

多良間島の皆様には、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますと共に、皆様のご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

東京多良間郷友会会長

土井 幸子



第48回ふしゃぬふ大運動会 在沖多良間郷友会



去る11月23日西原町民陸上競技場において、在沖多良間郷友会(会長 亀川博薫)の第48回ふしゃぬふ大運動会が開催された。

「秋風に走れ・秋空に舞え」と銘打って秋天高く快晴な中、多くの郷友が参加し楽しく過ごした。亀川会長は、「爽やかな秋晴れのなか老いも若きも楽しく和気あいあいと健康増進に頑張って下さい」とあいさつ。

競技では100M走や1600Mリレー、2世、3世、4世(幼児全員)らによるお菓子ひろいなど、またミズン競争、綱引きやギッチョウ、ワーガニなど多種にわたり競技を楽しんだ。

競技の結果、嶺間会が3連覇を成し遂げ凱旋をおこなった。



新区長紹介

字仲筋 2区長が交代



土原区長
浦崎 朝宏



天川区長
池間 雅英

仲筋字会新役員紹介

去る10月17日「マツター」の日に仲筋字会は総会を開き25年度の会計報告や活動報告を行った。また役員改選では次の通り選任された。

字会長：垣花 満	副会長：豊見山 登
庶務：志堅原 誠	会 計：大城 克憲
監査役：大城 幸盛	高江洲政隆



11月

世帯数と人口 (平成26年11月末現在)			
総世帯数		520 (1)	
総人口		1,230 (-1)	
男 661		女 569	
区 別	人 口	世帯数	
土原	70 (0)	32 (0)	
天川	100 (-1)	42 (-1)	
津川	112 (-2)	52 (0)	
宮良	77 (0)	31 (0)	
嶺間	152 (1)	66 (0)	
大道	198 (3)	92 (3)	
大木	301 (-3)	116 (-1)	
吉川	215 (1)	85 (0)	
水納	5 (0)	4 (0)	
出 生	0	死 亡	2
転 入	6	転 出	5

()内は前月比

おくやみ 宇仲筋 高江洲 勇 平成26年10月31日(82歳)
宇仲筋 大浦カマド 平成26年11月4日(97歳)

緊急ダイヤル	
火 災 村 消 防	(79-2619) 119番
警 察 官 派 出 所	(79-2010) 110番
急病人 (1)多良間診療所	79-2101
(2)時間外	090-6862-6490
(3)役場住民福祉課	79-2623
救急車要請 総務財政課(消防)	79-2619
歯科診療所医師	79-2162
停 電 沖縄電力多良間営業所	79-2147
断 水 役場住民福祉課	79-2623
家畜疾病 役場産業経済課	79-2503
ガス専用JA多良間	090-6859-2355

救急に関すること (11月)

◆時間外救急受付 8件

◆救急車出動 2件

◆ヘリ搬送 1件

救急車要請：
79-2619

急病人時間外：
090-6862-6490

広報たらま
寄付金のお礼

伊良皆 秀安様 (沖縄県西原町在) 照屋 次男様 (沖縄県豊見城市在)
ありがとうございました。

村長のたうけーむぬゆむ(ひとりごと)

12月22日は冬至(多良間ではトゥンジーという)である。一年のうちで昼間が一番短くて、夜が一番長い日である。冬至の日を境に冬の寒さが一段と深まる。冬至と対極にあるのが夏至(多良間ではカーツという)である。一年のうちで昼間が一番長くて、夜が一番短い日である。冬至と夏至の日照時間はおおよそ5時間の差があるという。

多良間では、冬至のことを「トゥンジーガマ」とも言い、別名「イミ正月」とも言った。子どもの頃、ジューシユを炊いてお供えした記憶がある。この日は早く太陽が沈むぶん夜が早い。「正月えーむ」と言って真つ暗闇となった。電気のない時代である。当時は屋敷の周りは福木の木で囲まれていた。道路側もほとんどが福木で覆われていた。電気はなく、懐中電灯も各家庭にあるわけではなかった。外を歩くときはほとんど見えない状況であった。そんな時は空を見ながら歩いた。福木と福木の間から見る空はやや明るく見えた。空を見ることが道路に沿って歩けたのだ。これを「ティンブカギ」と言った。

今年、19年に一度しか訪れない「廻旦冬至(さくたんとうじ)」という、とってもおめでたい特別な日である。「廻旦冬至」は新月と冬至が重なる希少な日である。新月はこれから満月に向かって満ちていく、月の復活を意味します。冬至は昼間が最も短

い日なので、冬至を境にこれから陽が長くなっていく日でもある。つまり、冬至は極限まで弱まった太陽が復活することを意味する。太陽の復活と月の復活が重なる、19年に一度(正確には19年と7ヶ月らしい)しか訪れないおめでたい日、それが「廻旦冬至」なのだ。

昔中国では19年に一度、廻旦冬至が予測通りに訪れると言うことは、すばらしい王が正しい政(まつりごと)を行っていると思われ、廻旦冬至を祝って、宮中では宴を催し盛大にお祝いをしたという。

第41代持統天皇は、この19年7ヶ月に一度のよみがえりの象徴とされる、「廻旦冬至」に国家の繁栄を願い、盛大な祝宴を催したと言われている。

「冬至に天氣がよければ翌年は豊作」「冬至に雷が鳴れば雨が多い」「冬至に南風が吹けば地震・日照り・大雨」という言い伝えもあるようです。

「廻旦冬至」のめでたい日を機に多良間村のゆがぷー繁盛、村民の無病息災・喜内繁盛を祈念します。



編集後記

☆今年一年を振り返って見ると、去る1月6日に多良間村消防団が出初め式を行い、一年間の安全と安心・無災害を願った。その後、多良間村（伊良皆光夫村長）主催による新春の集いを初開催。塩川集落センターにおいて、多くの村民や関係各機関が参加し新年の抱負を互いに語り合い相互の親睦を図った。

☆1月20日、平成26年の初セリが開催、子牛のセリ値が最高六十万円余と先行き良い兆しとなり畜産農家はほくほく顔である。また、この一年高値傾向で取引されている。

☆3月23日、多良間村制百周年記念事業の一環として、隣の石垣市に「感謝の碑」を建立した。1771年、明和の大津波で多良間島民は多くの尊い命が奪われ、大きな被害を受けたと言われる。そんな多良間島に対し食糧の支

援や宮古島へ食糧調達に渡航の際、天候悪化で石垣島へ漂着した多良間の人々を手厚く保護し助けた史実があり、石垣島の方々への恩を刻むため「感謝の碑」が建立された。

☆4月26日、村制施行百周年を記念した第20回多良間村・各郷友会交流グラウンドゴルフ大会が開催。グラウンドゴルフ大会をとおして「親島と各郷友会」が交流・親睦を図り、互いの絆を確認し合い「ふるさと」の素晴らしさを再発見することを目的とした。

また伊良皆村長は、初の「多良間島サミット」を開催。石垣在、在宮古、在沖、NPOふしやぬふ法人代表らが出席し、多良間村の将来に向けた意見や提言などが出された。

☆6月17日、沖縄県農林水産部は多良間村のサトウキビ

生産者252人を、環境保全型農業に取り組む農家「エコファーマー」を新規で認定した。島ごとエコファーマーは県内では初めての例。堆肥や緑肥・有機物等による土づくりや化学肥料・農薬等の使用低減の導入、環境に優しく持続性の高い農業生産方式に取り組む農家を沖縄県が認定したことは大変誇りであり、日本一の黒糖生産への励みになる。

☆村制百周年記念事業に伴い、当地キャラクター「たらびん」が9月30日、村役場でお披露目した。「たらびん」は住民福祉課で住民登録手続きをし、1125人目の多良間村民として住民基本台帳に登録された。「たらびん」はこれからいろんな場所へ出かけ多良間島のPRを行っていく。

☆多良間島には大きな祭りが「スツウプナカ」八月おど

り（来年の八月踊りは9月の5連休である）がある。数多くのスポーツ行事のなかでも、たらま島一周マラソン大会があり、年々参加者が増えてきた。健康増進や体力維持には毎日のトレーニングは欠かせないものである。

☆今年各郷友会長へ広報たらま掲載を依頼したところ、快く頂き感謝、感謝である。

八重山在多良間郷友会長の山城吉博氏を皮切りに在宮古多良間郷友会長の名城常一氏、在沖多良間郷友会長の亀川博薫氏、関西多良間郷友会長の下地勝二氏、東京多良間郷友会長の土井幸子氏、ありがとうございました。

てるけん

